

タンダー・アウン研究員（ミャンマー）



はじめまして。私はミャンマーから来ましたタンダー・アウンと申します。私はミャンマーの社会福祉・救済再復興省救済再定住局で働いています。ここでは、調整および研究機関の上級事務員として働いています。また、緊急オペレーションセンターのメンバーとしても活動を行っています。

私の出身国のミャンマーは、人口は約6,000万人です。7つの地域と7つの州で構成されていて、主要産業は農業です。面積はおよそ67.6平方キロメートルで、東南アジアにおいて2番目に大きな国です。南北の長さは約2,200kmで、東西の幅は約925kmです。インド、中国、タイ、ラオス、バングラデシュが隣接していて、ベンガル湾とアンダマン湾に面しています。

自然災害に関しては、ミャンマーはサイクロン、高潮、洪水、地滑り、地震、津波、旱魃、火災、森林火災など、様々な自然災害に直面しています。例えば、沿岸地域では高潮の被害が多く報告されています。ミャンマーは地理的に海洋資源が豊富ですが、一方で高潮やサイクロンなど天候に関する災害に影響を受けやすい国です。そこで、これらの災害発生の増加に伴って、ミャンマー政府は災害管理システムを構築し、2013年7月に議会に置いて災害に関連する法案が制定されました。

近年の災害発生割合をみると、火災が73%、嵐が12%、洪水が11%、地震・津波・地滑りなどのその他災害の発生が4%となっています。2008年に発生したサイクロンナルギスはミャンマーの歴史においても最も大きな被害をもたらしたものでした。災害直後、私たちは緊急オペレーションセンターを設置し、JICAと共同で開発したエーヤワディー（Ayeyarwady）地域の早期警報システムを始動させ、災害対応にあたりました。

最後に、この客員研究員プログラムへ参加の機会を頂いたミャンマー政府と、アジア防災センターに感謝を申し上げます。この機会は、私の成長にきっと役立つと思います。